

はまだっこ



「心の計算」割り算（いたわる）を 考 える（10月までを振り返って）

学校生活に日常が戻りつつあります。この2日には参観いただく時間の制限はあったものの、お一人のお子様に二人までの同居家族の参観という形での学校公開が行えました。やはり、子どもたちはとっても嬉しそうでした。特に低学年のお子様は、とても張り切っている子から逆に意識しすぎていつもの様子を見ていただけなかったという子までいたようです。

日常生活が戻りつつある中、学習も学年・学校行事を進めることができるようになり、前号にあったように新型コロナウイルス感染拡大予防には取り組みつつも新型コロナウイルス感染拡大予防の方法を見直したり、共有物の使用制限を解除したりできるようになってきました。6年生は金曜日に奈良へ社会見学に行くこともできました。子どもたちの活動も活発になりつつあります。

そんな中、2週連続（23日・24日と30日・31日）で2年生の植木鉢が割れ、プランターも割れていました。何か固いものが当たったような割れ方でした。2週連続で金曜日の帰りには割れていなくて、月曜日の朝割れているのが見つかっています。「心の計算」



に「いたわる」という割り算に例えた目標があります。これは自分より小さい子だけに優しく接することを言っているではありません。自分も含めて、人を大切に、接する時に「いたわる」心が使えるようになって欲しいと願っています。2年生の子が毎日水やりをしています。そんな2年生の子の気持ちを考えることができるなら、また、失敗した時は「自分です。」ときちんと話をすることで自分の行動に責任を持つことができるなら、それが自分を大切にすること＝自分も含めて「いたわる」心づかいができることになると、私は思っています。

先週の祝日の日に浜田公園の縁石に添って、今年も花壇を作りました。去年は平気で苗を踏まれました。何度話をしても、何度も踏まれました。また、昇降口の前には、すでに冬の花の苗が植えてあるのですが、すでに先のとがった物（おそらく傘）で土に無数の穴が開けられていたり、苗ごと踏まれて苗が折られたりしています。毎日水やりをしてきている委員会の人たちの気持ちを考えて欲しいです。そして、こうしたことがあってもそこに花壇を作っている理由を考えて欲しいです。

今年度もあと5ヶ月となった今だからこそ、今年みなさんと約束をした「心の計算」ができる人に、みんなであっていきましょう。はまだっこ全員がその気になって欲しいです。

朝のかけ足が始まりました。（11月4日）

11月4日から朝のかけ足が始まりました。浜田公園も使って走るため、10月29日には、放課後草刈りをするため、浜田公園で遊ぶことを遠慮して欲しいとお願いをしたと



ころ、みなさんが協力をしてくれました。翌週の11月1日、朝の登校に立っていると、「校長先生、公園をきれいにしてくれてありがとう。」とお礼の気持ちを伝えてくれる子がいました。表面に書いたようなことが起こっていただけに、その「相手をいたわる」「声をかける」気持ちから出たであろうその「ありがとう」の言葉が本当に温かく感じました。校長先生一人でやったのではなく、何人かの先生が「校長先生、何か手伝えることはありませんか。」と声をかけてくれたので、刈ったり抜いたりした草を集めることを手伝ってもらいました。終わった時はもう真っ暗でしたが何とかかけ足に間に合わせることができました。みなさんが朝のかけ足に、そして体育の持久走で自分の持てる力を発揮してくれることを楽しみにしています。



ねん くみこく ごこうかいじゅぎょうおこな がつよっか 1年3組国語公開授業 行われる。(11月4日)

1年3組の国語の授業を参観させてもらって「聴き合い、学び合う授業づくり」についての学びを、進めさせてもらうことができました。また、こうした時は、他のクラスは自習になりますが、非常勤の先生方から聞くと、みなさんが担任の先生から出された課題にしっかり取り組んでいたと報告を受けました。だから、先生方も安心して研修が進められます。ありがとうございます。



1年生の授業は、説明文「いろいろなふね」を教材に行われました。指導者臼井先生は、この日の公開授業のため、何度も指導案を練り直し、船の「役目・つくり・できること」を子どもたちが読み取れるようにするにはどのような授業展開や教材との出会いを作るとよいのかを考え抜いて、今日の授業に向き合ってきました。本時では、文の並び替えと穴埋めを使って、子どもたちの興味関心を引き出し、揺さぶりをかける切り返しを駆使していました。この授業の中で一番いいなあと思ったことは、子どもたちの意見の多さでした。しかも、それが一問一答ではなく、子どもたち同士が意見をつないでいて、1年生なりに読み取りに深さを加えていた点でした。また、発言が一部の子に偏らず、ほとんどの子が挙手をして発言をしていたこともよかったです。そして、指導者がいいタイミングで、揺さぶりをかけるので、子どもたちは「先生、それはおかしいよ。」「それはずるいよ。なぜかという・・・。」と、指導者の揺さぶりに喰らいついてくる姿もありました。こうした授業は、公開授業だからできたのではなく、臼井先生と子どもたちが、今までに創り上げてきた授業の姿だと思います。本校研修の目的「聴き合い・語り合う授業づくり」が達成されている姿を、1年生の子どもたちが見せてくれました。

また、事後研修会では指導課課付主幹の重内先生から、「さらに高みを目指すために」と、「わかったつもり」を崩すための授業づくりと指導者の働きかけについてご助言いただきました。指導者が「授業のゴール」をはっきりさせ、授業の中でその評価基準が子どもに見えてくる授業づくりが大切であることを指導いただきました。

1年3組の皆さん、これからもこの日のようにみんなで学びに向き合っていくてください。みなさんと一緒に勉強ができて、本当によかったです。ありがとうございました。